

皆様、明けましておめでとうございます。新たな年、平成25年をお健やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。

町民の皆様には、平素から町議会に對しまして、格別のご配慮を賜り、深く感謝申し上げます。

議員一同議会の使命を果たしつつ、執行部と切磋琢磨しながら、まちづくりの主役は町民の皆様であることを肝に銘じ、努力してまいりたいと考えております。

さて、昨年を振り返ってみますと、日本選手団が獲得メダル数史上最多を記録したロンドンオリンピックの開催や、県内でも全国20番目の政令指定都市熊本市の誕生など賑やかな出来事もありましたが、政権交代後の政情不安から円高・株安の悪循環が続き、一昨年の東日本大震災と原発被ばくからの復興もままならない状況が続いております。特に県内では7月の九州北部豪雨で阿蘇市や熊本市を中心に、空前絶後ともいうべき土砂災害で大きな被害が発生したことはいまだ記憶に新しいところでございます。

幸いにして当町においては、そのような災害は、発生しなかったものの、自然への畏敬の念を忘れず、災害に対する日ごろの備えと構えの重要性を改めて教えられた思いがいたします。

一方、地方自治においては、前述のとおり政権与党の不安定な態勢か

ら地方交付税配分の遅延や先行き不透明な消費税増税法案可決など、生活に直結した諸問題が次々と顕在化してきています。

町議会としまして、意思決定機能としての機能充実に努めるとともに、メリット、デメリットを十分精査しながら、住民福祉、文化の向上を第一に捉え、最小の経費で、最大の効果をあげるべく、かかる諸問題に真剣に取り組んでいかなければならないと考えております。

そのような状況の中、懸案であった益城台地区画整理事業において大手スーパの進出がいよいよ具現化してまいりました。下水道の全町整備、九州中央自動車道小池高山インターチェンジ(仮称)の建設、相次ぐ老人福祉施設の竣工など、今、益城町はめまぐるしい変貌を遂げようとしています。中でも、昨年着工した保健福祉センターにおいては、今年3月の竣工を目指し急ピッチでその整備がなされております。

今後も執行部と表裏一体となり活気ある益城町の創造をめざし全議員結束の下、全力を傾注してまいる所存でございます。

最後になりましたが、町民の皆様にとりまして本年が実りある飛躍の年となりますよう心から祈念申し上げますとともに、今後も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶いたします。

活気ある益城町の創造をめざして

益城町議会議長

福永 誠一

